

3 . 流域の社会状況

3 - 1 土地利用

大野川流域は、大分・熊本・宮崎の3県にまたがり、関係市町村は2市13町4村に及んでいる。各県の占める面積は、大分1,216km²，熊本223km²，宮崎26 km²となっている。

流域内の土地利用は、その大半を林野と耕地が占めていて、その割合は平成9年時点で約95 %となっている。

近年、大分市近郊で都市化・宅地化の進展が見られるようになった。

表 3 - 1 土地利用の経年変化

(単位：km²)

年次 地目	昭和30年	昭和40年	昭和50年	昭和60年	平成9年
総面積	1,465.00	1,465.00	1,465.00	1,465.00	1,465.00
宅地	(2.99%) 43.73	(3.23%) 47.31	(3.79%) 55.53	(4.31%) 63.11	(4.63%) 67.88
林野	(52.46%) 768.53	(72.20%) 1,057.79	(75.96%) 1,112.84	(77.09%) 1,129.39	(77.25%) 1,131.68
耕地	(44.56%) 652.73	(24.57%) 359.90	(20.25%) 296.62	(18.60%) 272.51	(18.12%) 265.44

注1) () 書きは各地目の総面積に対する割合(%)を表す。

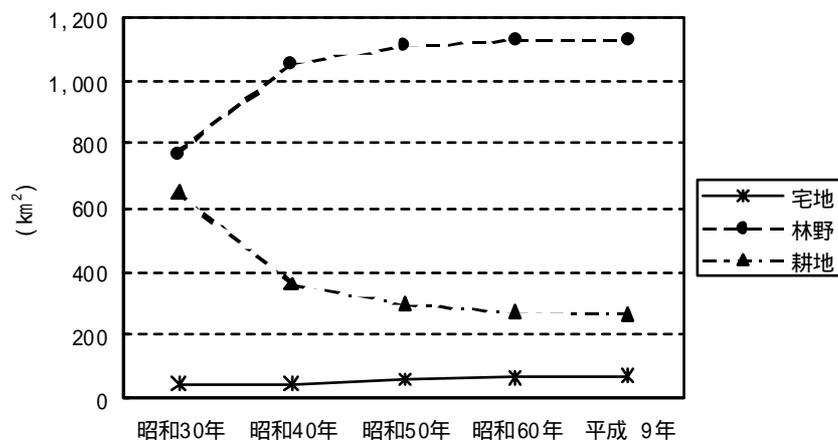


図 3 - 1 土地利用の経年変化図

3 - 4 交通

大野川流域は、ほぼ九州中央部の東側に位置し、東九州の動脈と西九州とを結ぶ動脈である道路・鉄道の交通網が交差して、九州地方の人流・物流の要衝となっている。

高速道路は、大分と福岡を結ぶ九州横断自動車道が整備され、また、大分と熊本を結ぶ中九州横断道路の建設が計画されている。

国道は福岡・大分・宮崎・鹿児島を結ぶ国道10号が縦断し、大分と熊本を結ぶ国道57号と犬飼町で交差している。最近では、国道326号の犬飼、延岡間が流域内中・上流部の三重、宇目を縦断し、国道10号と並んで東九州地方の幹線道路として大きな役割を果たしている。

鉄道は、国道10号と同様に福岡・大分・宮崎・鹿児島を結ぶJR日豊本線が縦断し、大分と熊本を結ぶ豊肥本線、福岡県久留米市とを結ぶ久大本線が横断している。

3 - 5 将来構想

大分県は、地域づくりの目標として「おおいた新世紀創造計画（仮称）」を策定し、県内の各地域の自然や文化、社会特性や住民の生活実態等を踏まえたうえで、各地域が持つさまざまな課題に対応した施策を実施し、地域の発展を図っていくことを目的として、6つの圏域計画を位置づけている。大野川流域では、「都市機能の集積と快適な生活空間の形成で大分の未来を担う高次中核都市圏」として『大分臼津圏』、「文化と産業が共生しあふれる自然が人々を招く名水田園都市圏」として『大野直入圏』が設定されている。



図3 - 2 流域の将来動向